

4 13地区別集計結果について

(1) 人口

最も人口の多い地区は鶴沼地区の57,933人で、全体の13.3%を占める
5年間で最も人口が増加したのは辻堂地区で、増加率6.4%
湘南大庭地区など4地区で人口が減少

令和2年10月1日現在の総人口436,905人を、市内13地区に分けてその構成をみると、最も人口が多いのが鶴沼地区の57,933人で、全市の13.3%を占めています。次いで藤沢地区の46,793人（10.7%）、辻堂地区44,000人（10.1%）の順になっています。**図28、29参照**

前回調査からの5年間で人口の伸びが一番大きかった地区は辻堂地区で、2,651人（6.4%）増加しています。一方、4つの地区で人口が減少し、最も人口が減少した地区は、湘南大庭地区で552人（1.7%）減少しています。**図30参照**

また、人口密度については、1k㎡当たり10,000人を超えているのが鶴沼地区（10,327人/k㎡）、明治地区（10,117人/k㎡）、辻堂地区（10,053人/k㎡）で、逆に人口密度が低いのが、御所見地区（1,519人/k㎡）と遠藤地区（2,393人/k㎡）となっています。

図28 13地区別人口構成

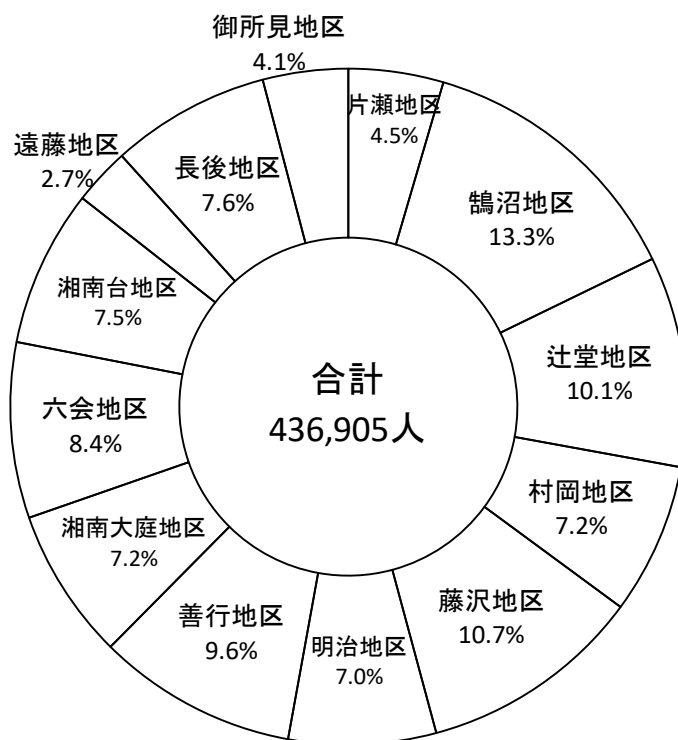


図29 13地区別人口構成の推移

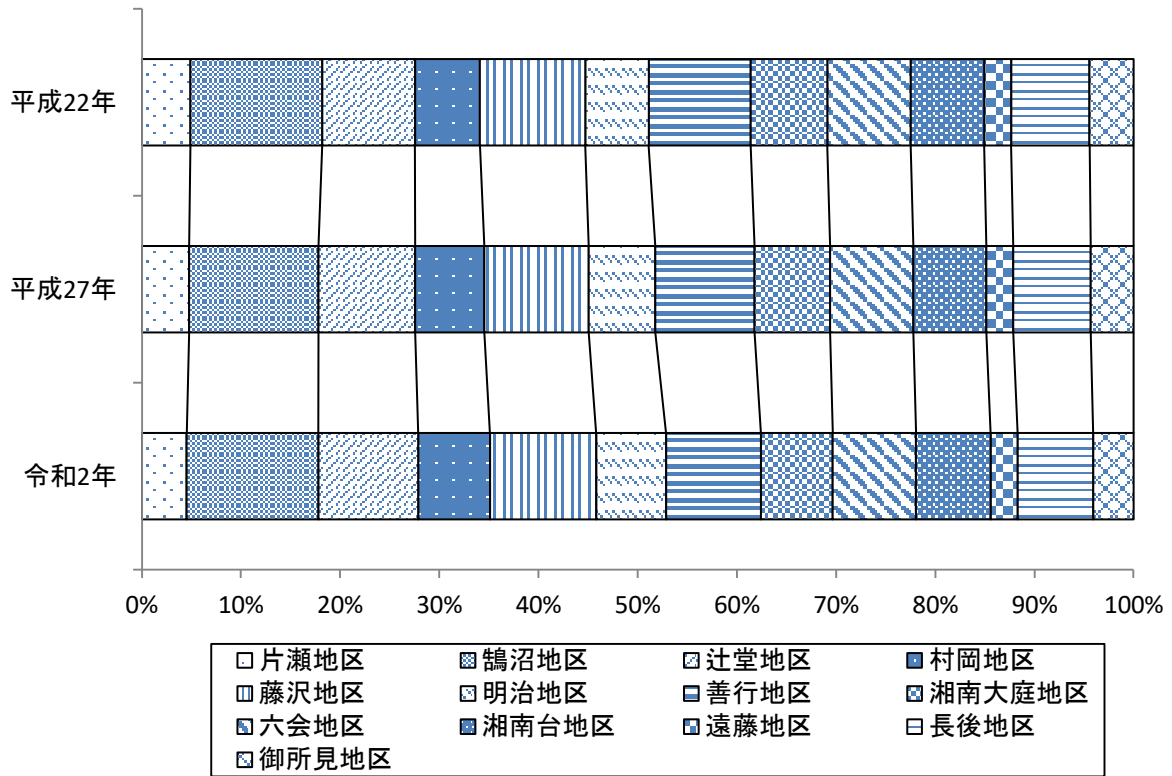
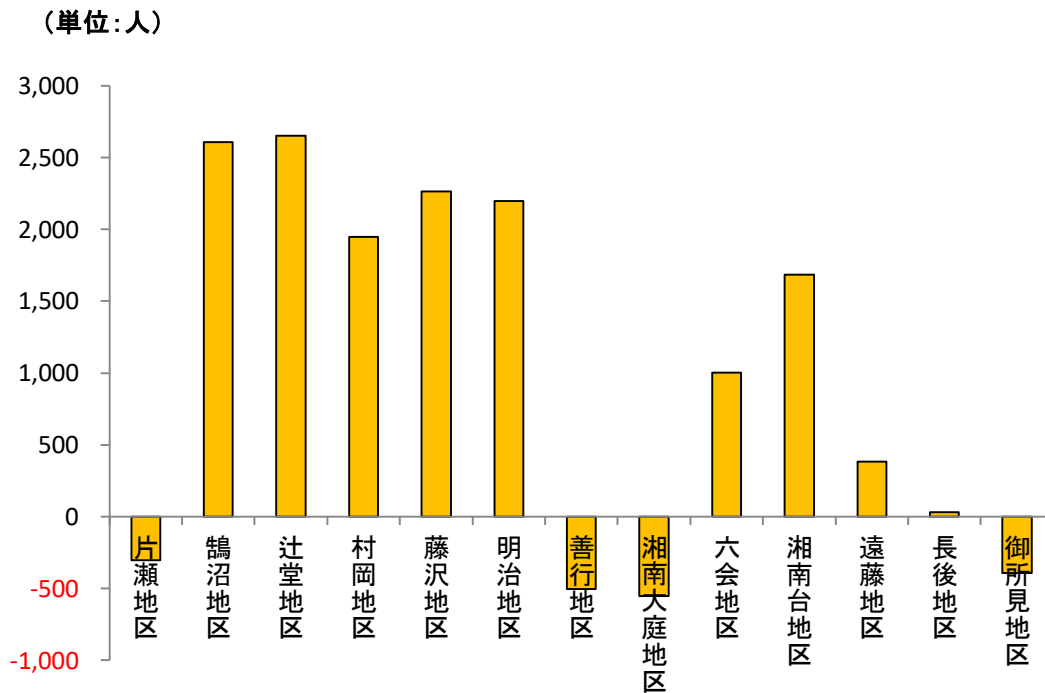


図30 13地区別増加人口（平成27年比）



(2) 男女別人口・年齢別人口

遠藤・御所見・六会・湘南台・長後地区で、男性人口が女性人口を上回る
年少人口指数が高いのは村岡・辻堂地区
老年人口指数が高いのは湘南大庭地区

市全体の人口を男女別にみると、女性人口が男性人口を上回っていますが、人口性比を13地区別にみると、遠藤地区が108.1で一番高くなっています。一方で、人口性比が最も低いのは片瀬地区で89.6となっています。**図31参照**

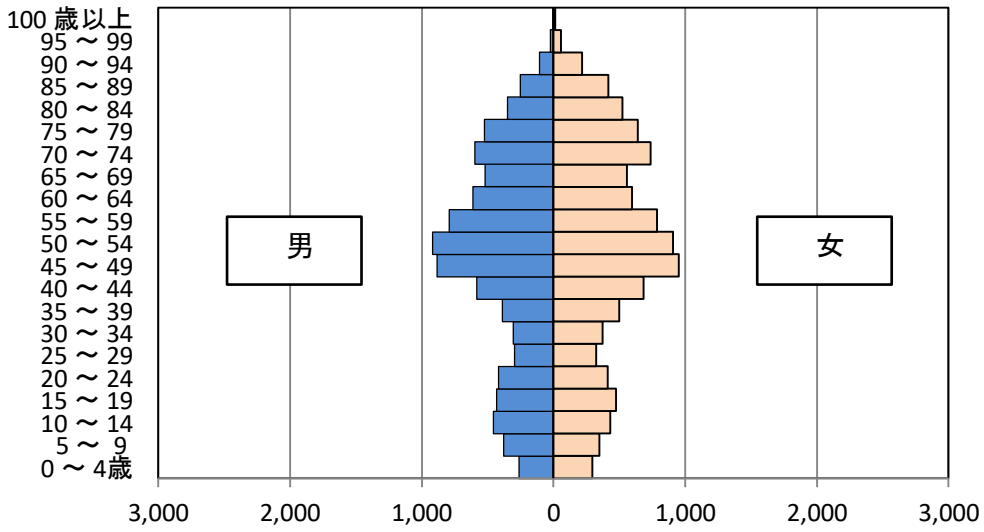
年齢別人口を年齢構成指数で追ってみると、年少人口指数が全市平均（21.4）より高い値を示しているのが、村岡地区（25.5）、辻堂地区（25.2）など4地区あります。

また、老年人口指数が全市平均（40.2）を上回っているのが、湘南大庭地区（60.6）、御所見地区（53.9）など5地区です。逆に下回っているのが、湘南台地区（28.5）、六会地区（34.4）など8地区です。

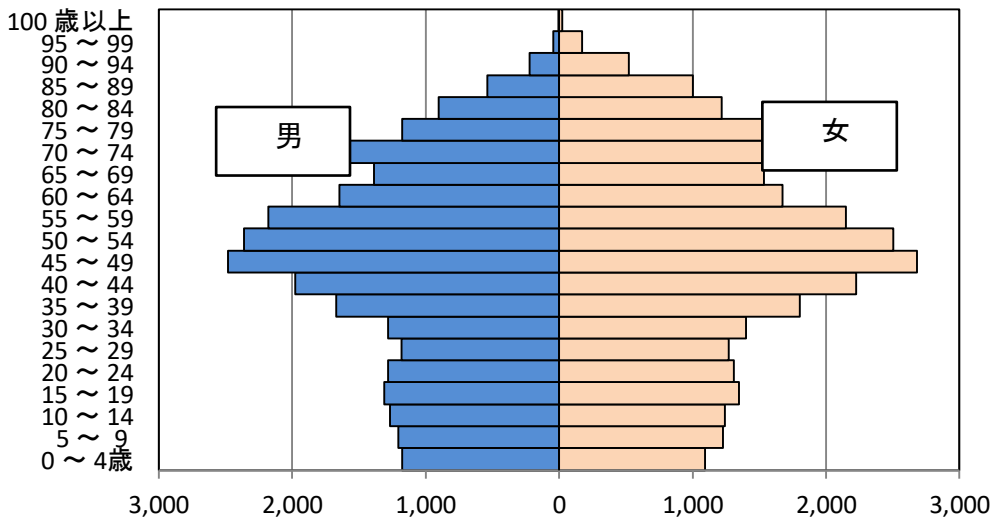
老年化指数（子どもの数を100としたときの高齢者の数）をみると、全市平均（187.6）を上回っているのは、御所見地区（264.3）、湘南大庭地区（261.3）など7地区です。**図32参照**

図31 13地区別人ロピラミッド

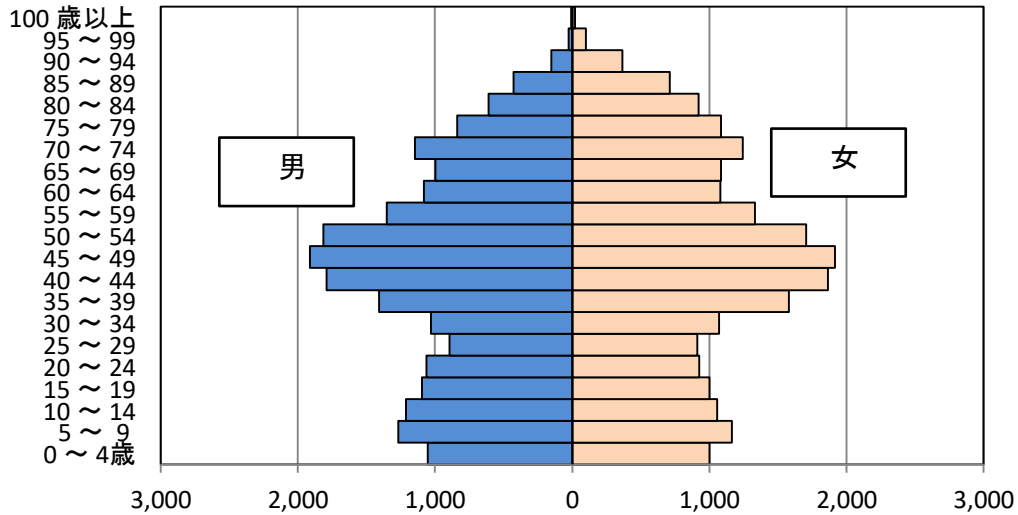
片瀬地区



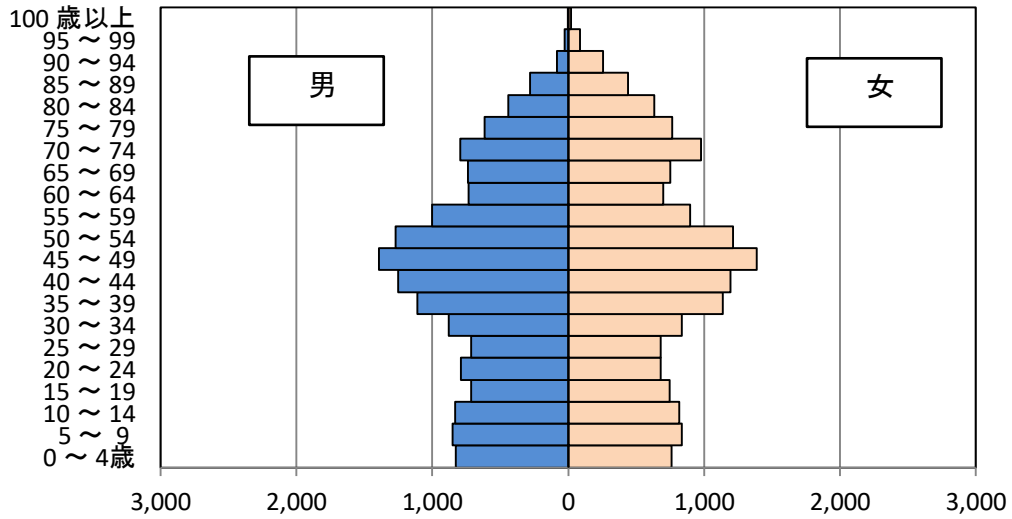
鶴沼地区



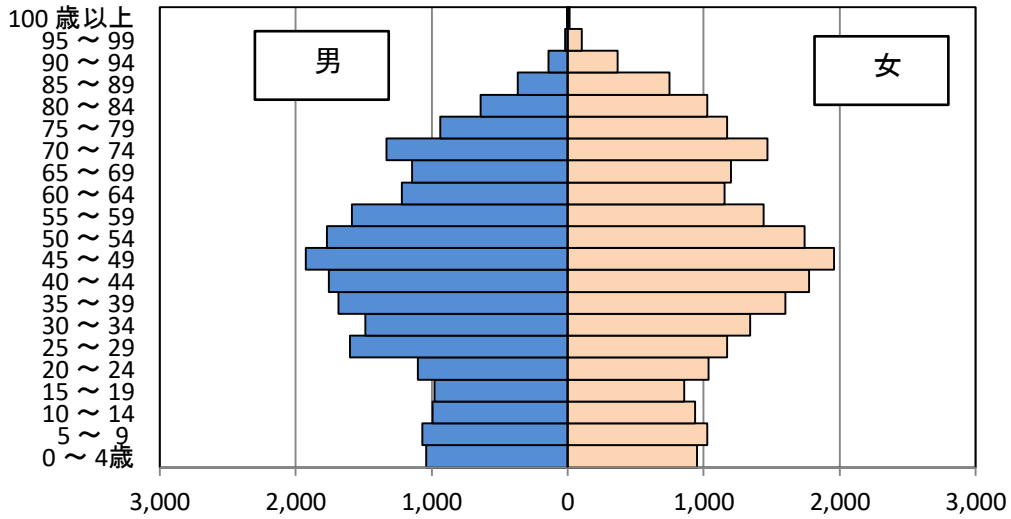
辻堂地区



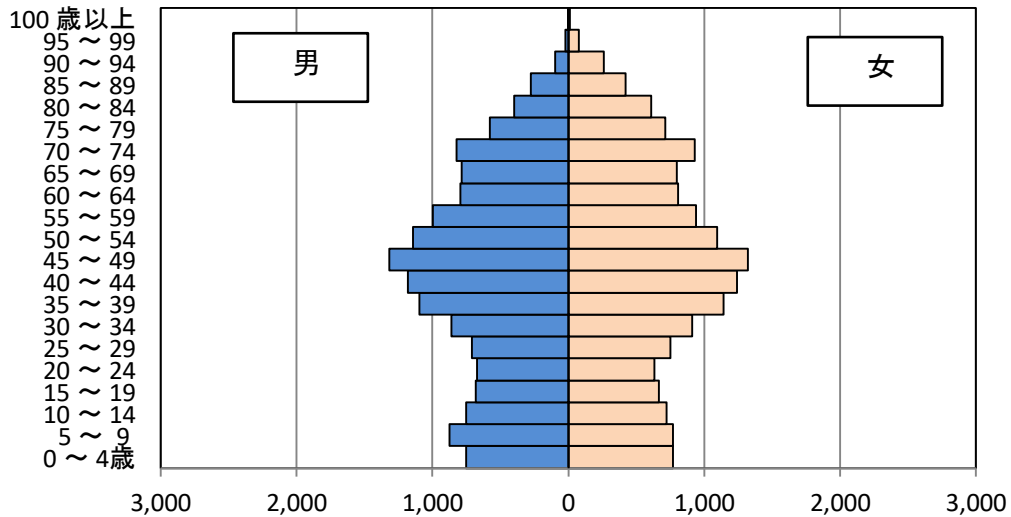
村岡地区



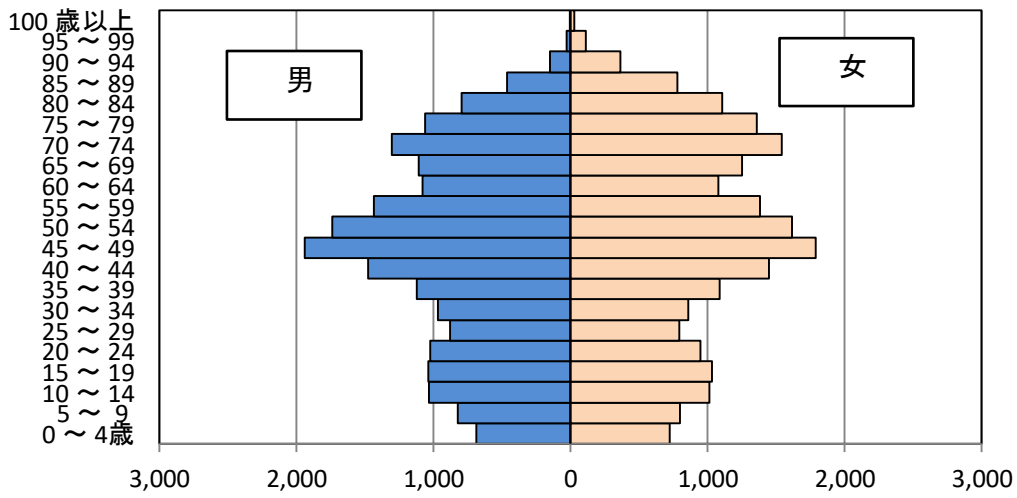
藤沢地区



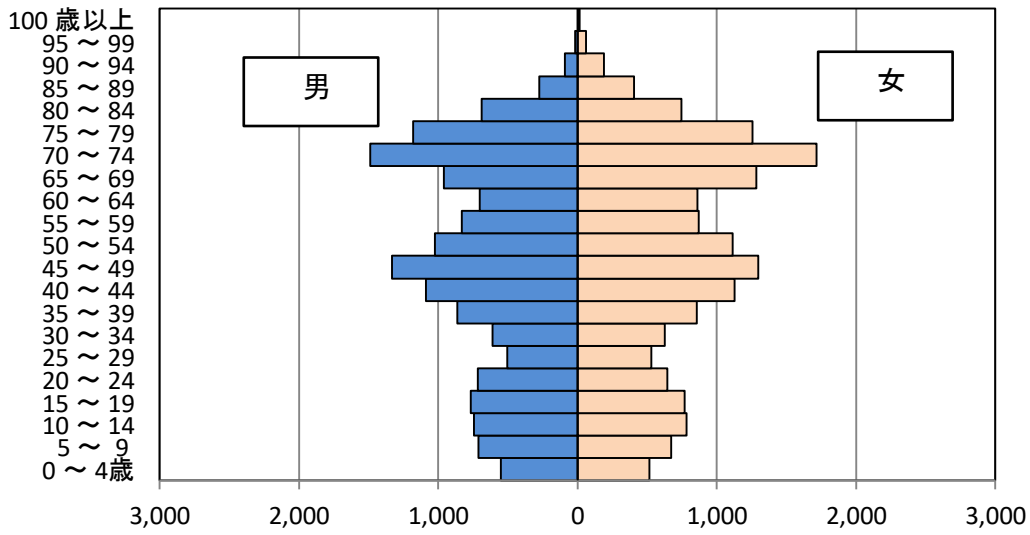
明治地区



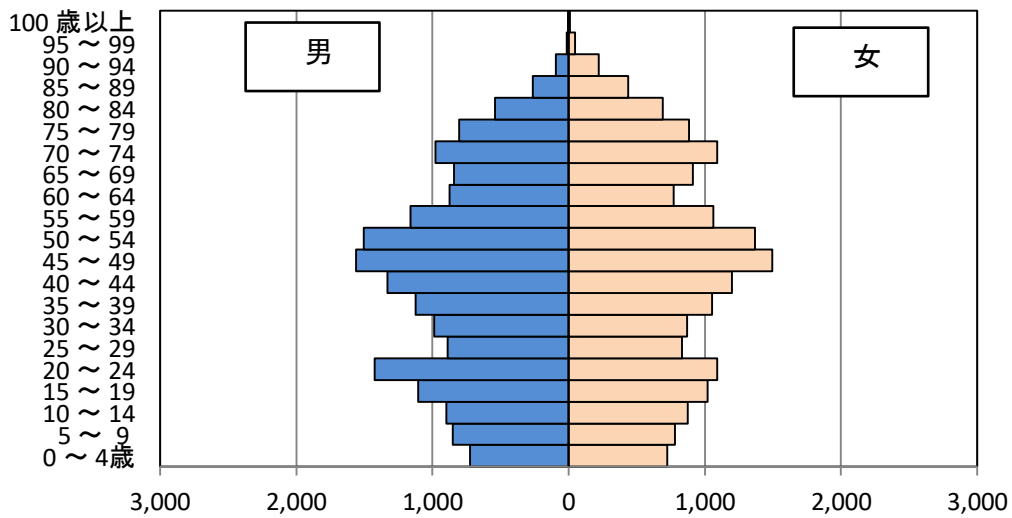
善行地区



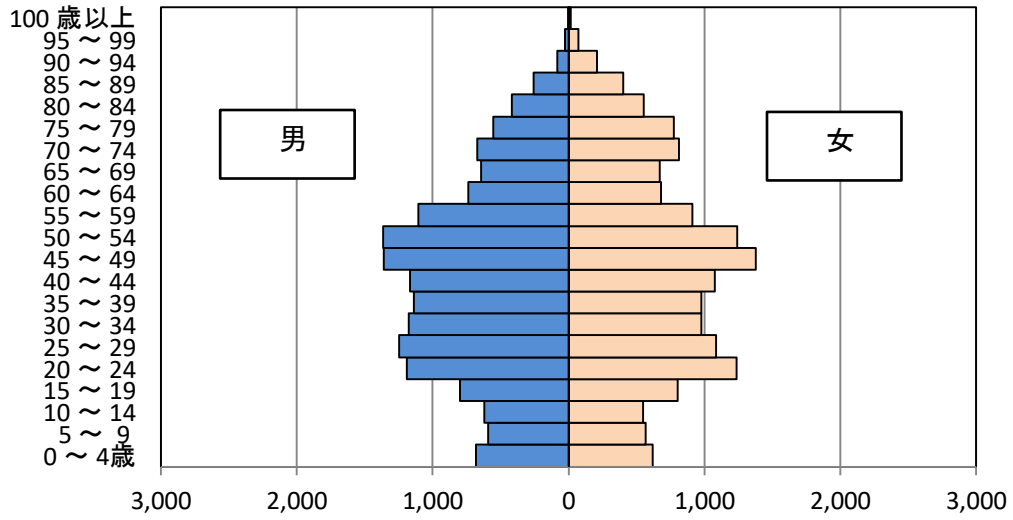
湘南大庭地区



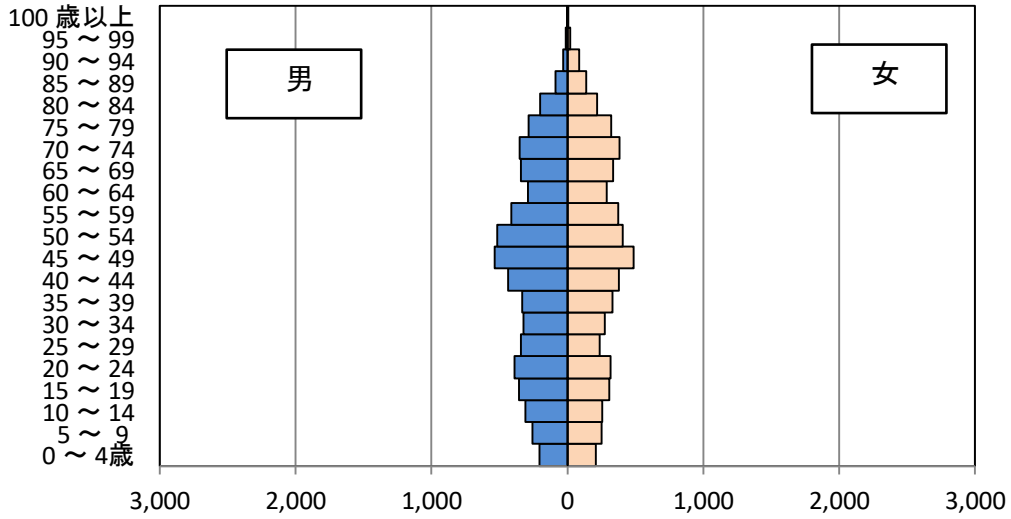
六会地区



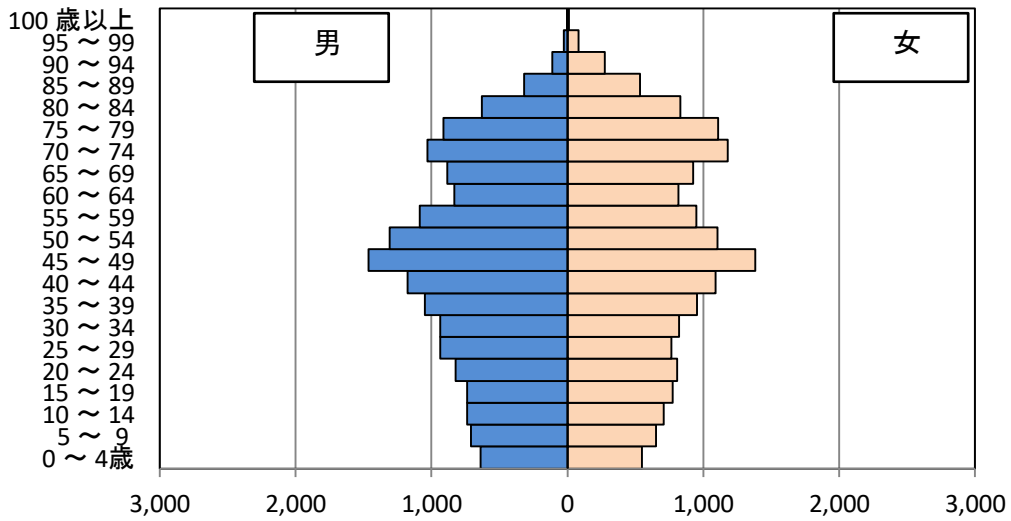
湘南台地区



遠藤地区



長後地区



御所見地区

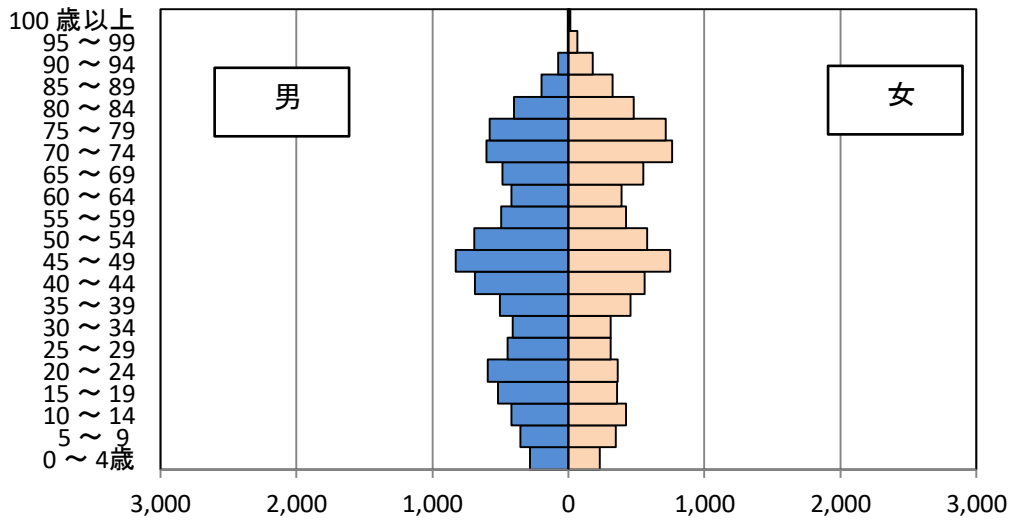
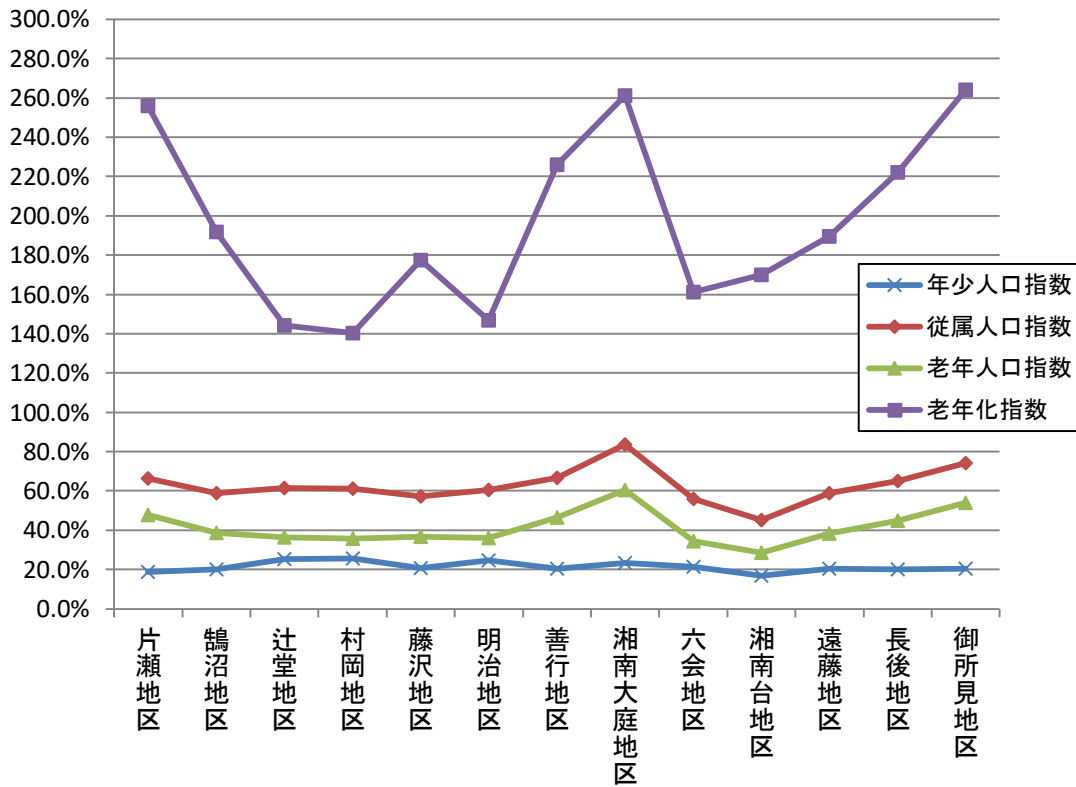


图32 13地区別年齢構成指数



(3) 世帯の状況

核家族世帯の割合が一番大きいのは湘南大庭地区 (70.4%)
 単独世帯の割合が大きいのは湘南台地区 (49.6%)

一般世帯数について家族類型別にみると、核家族世帯の割合が最も高いのが湘南大庭地区の70.4%で、次に村岡地区の65.1%、明治地区の62.9%と続きます。

同様に、単独世帯の割合が最も高いのが湘南台地区の49.6%、次に藤沢地区の42.6%、六会地区の38.7%と続きます。 **図33参照**

次に、1世帯当たり人員をみると、全市平均2.26人に対して、村岡地区の2.47人、御所見地区の2.45人などが上回っている一方、平均を大きく下回った地区は、湘南台地区の1.99人、藤沢地区の2.10人となっています。これは、村岡地区では1～2人の世帯が少ないこと、御所見地区では5人以上の大規模世帯が多いこと、湘南台地区、藤沢地区では1人世帯が多いことに起因しており、地区の居住状態を表しています。 **図34、図35参照**

図33 13地区別家族類型別一般世帯数

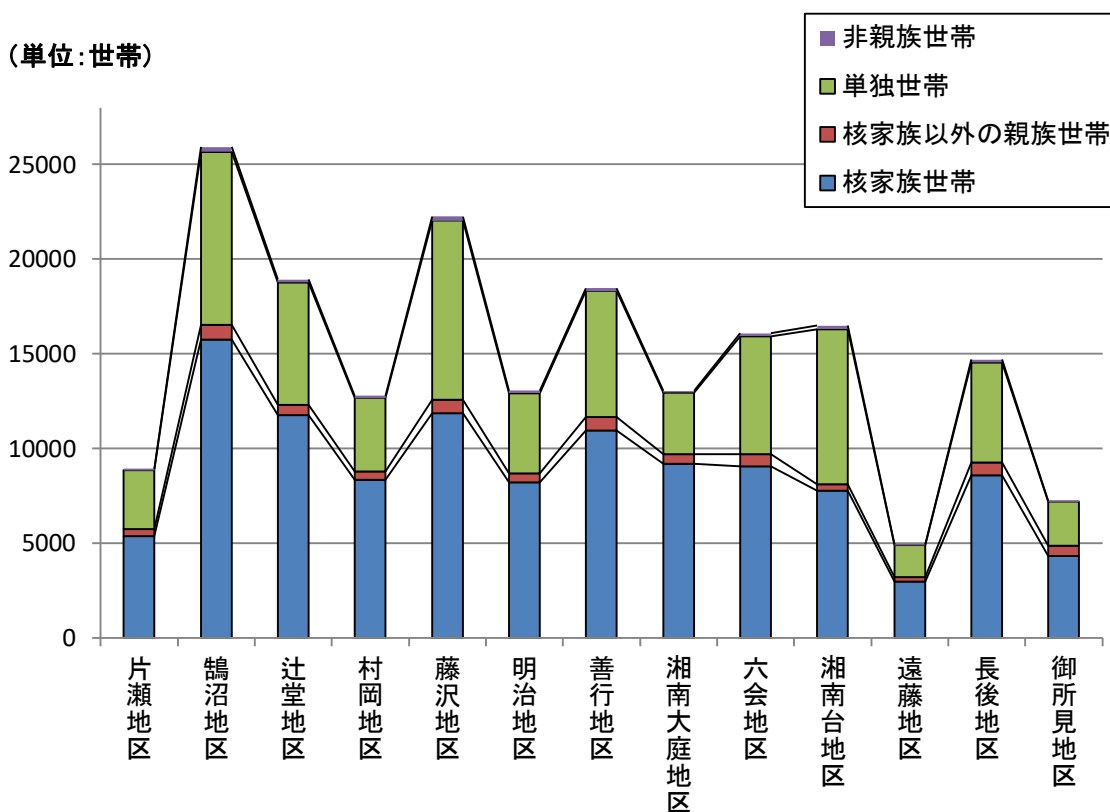


図34 13地区別1世帯当たり人員（一般世帯）

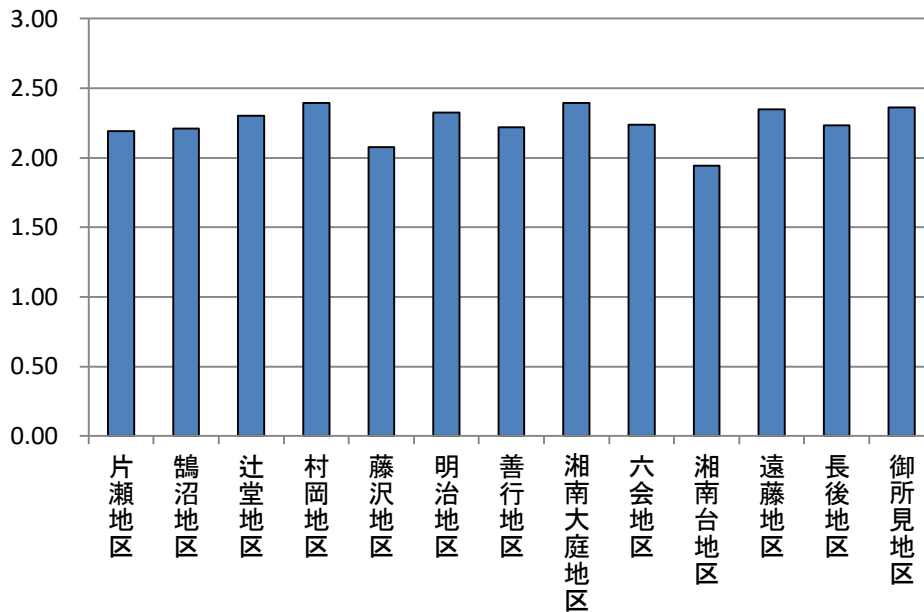
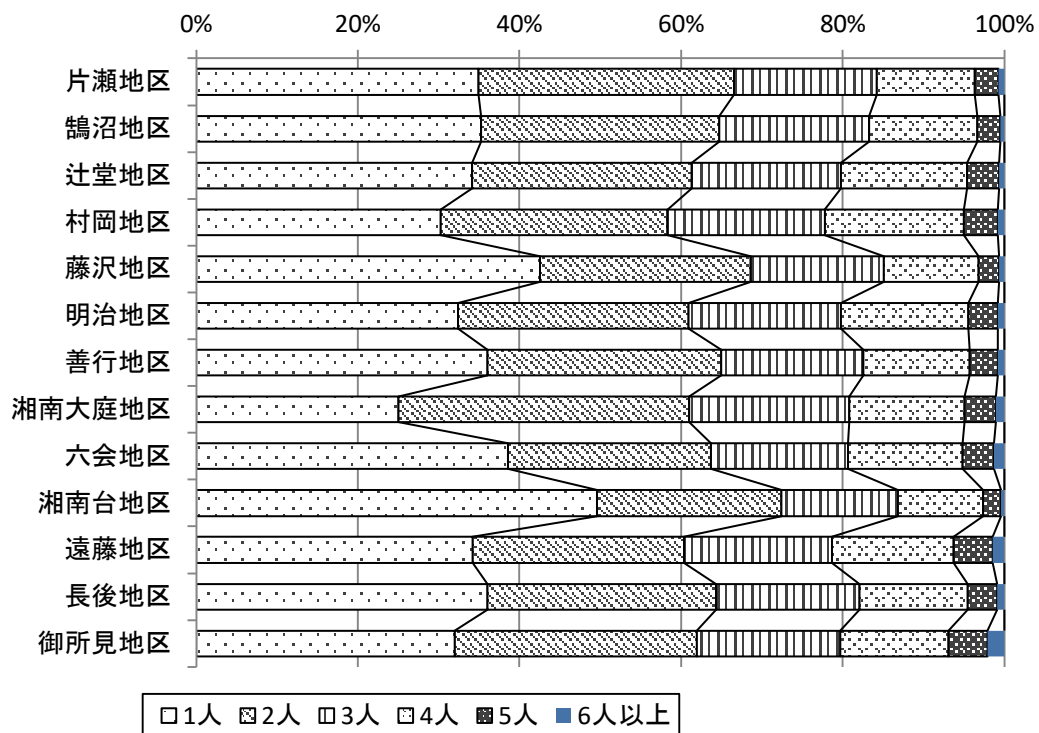


図35 13地区別世帯人員別一般世帯の構成



(4) 住宅の状況

持ち家比率が7割を超えているのは、片瀬地区
13地区中3地区で、6割以上の世帯が集合住宅に居住

一般世帯の中で住宅に住んでいる世帯について、13地区別に居住状況を比較してみます。持ち家比率をみると、最も高いのが片瀬地区（75.5%）、次に御所見地区（68.2%）と続きます。最も低いのは湘南台地区（38.1%）です。

このことは、借家比率にも反映され、湘南台地区では、5割を超える53.9%の世帯が「民営の借家」に住んでいます。一方、低いのは御所見地区（18.6%）、湘南大庭地区（20.9%）、片瀬地区（21.9%）と続きます。図36参照

住宅の建て方別に一戸建か集合住宅（長屋建と共同住宅）かの別をみると、一戸建に住んでいる世帯が地区全体の60%を超えているのは、御所見地区（68.2%）の1地区となっています。

集合住宅が60%を超えているのは、湘南台地区（77.3%）、藤沢地区（64.3%）、湘南大庭地区（60.8%）の3地区となっています。図37参照

図36 13地区別住宅の所有関係別割合

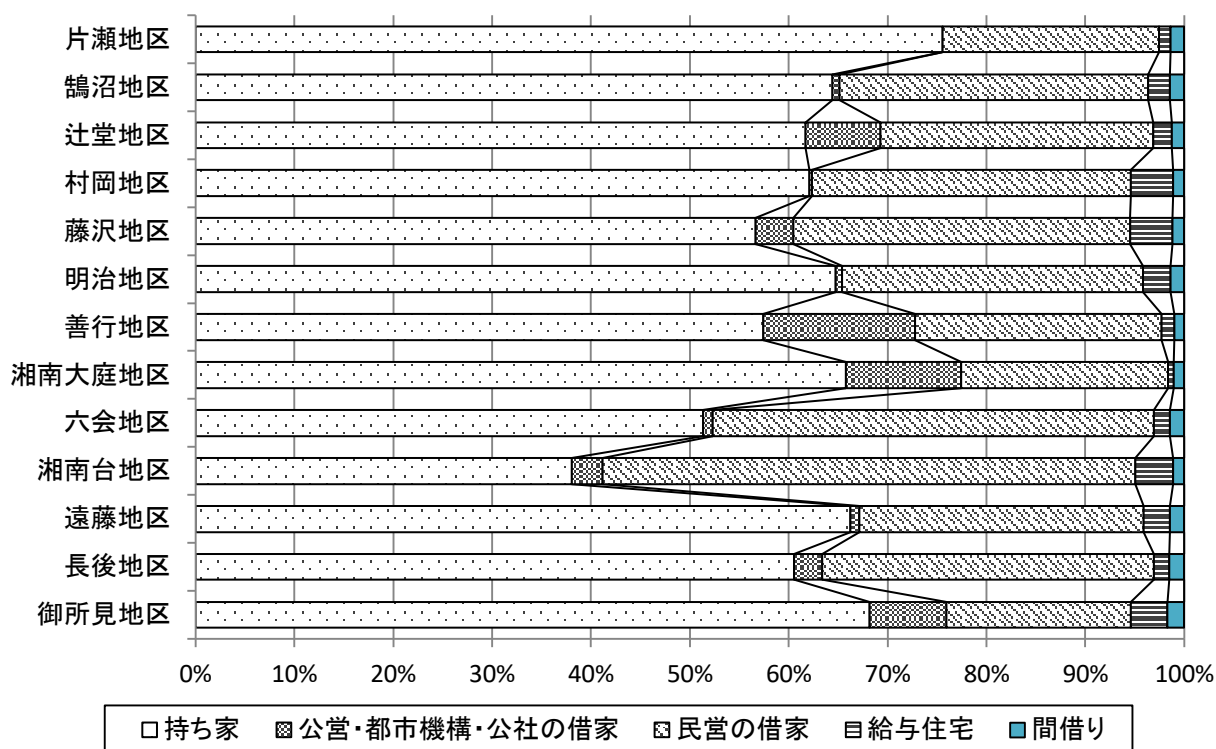
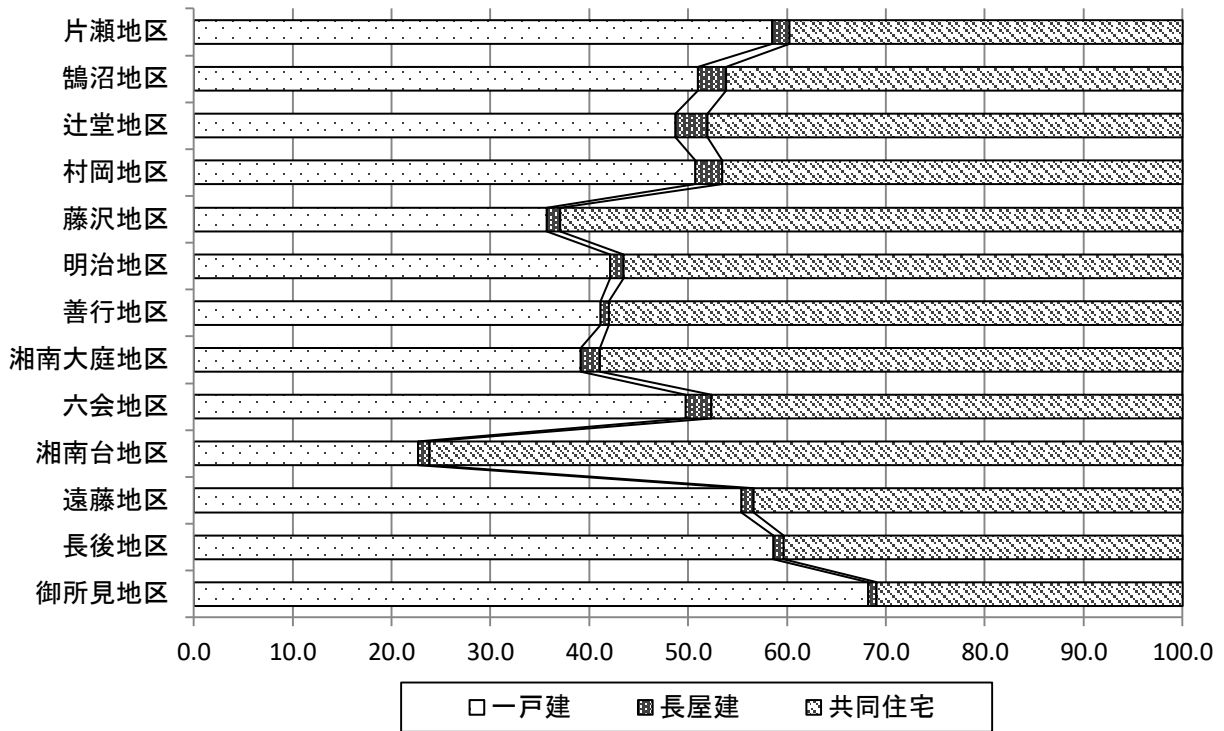


図37 13地区別住宅の建て方別一般世帯の割合



(5) 労働力状態と産業別就業者数

湘南台・藤沢地区で労働力率が高い
第1次産業就業者の約6割が、御所見・六会・長後・善行地区に居住

15歳以上人口に占める労働力人口の割合（労働力率）の藤沢市平均は62.6%（うち男性73.4%、女性52.5%）となっています。（ただし、労働力状態「不詳」を除く。）

13地区別労働力状態別15歳以上人口をみると、藤沢市平均を上回る地区は、湘南台地区（66.0%）、藤沢地区（65.4%）などの8地区です。逆に最も低い地区は、湘南大庭地区（56.4%）です。図38参照

労働力人口から完全失業者を除いた「就業者」について産業3区分別に市全体に占める構成をみると、第1次産業就業者の比率が高い地区は、御所見地区（22.6%）、六会地区（14.8%）、長後地区（11.3%）、善行地区（10.9%）の4地区で、市全体の約6割を占めています。第2次産業就業者の最も比率が高い地区は、藤沢地区（11.1%）です。また、第3次産業就業者の比率が高いのが鶴沼地区（14.3%）、藤沢地区（11.4%）です。図39参照

職業大分類別にみると、片瀬地区・鶴沼地区では「生産工程従事者」の割合が少なく、「管理的職業従事者」の割合が多いことと、遠藤地区・御所見地区では「専門的・技術的職業従事者」の割合が少なく、「生産工程従事者」が多いことが特徴的です。図40参照

図38 13地区別労働力状態別15歳以上人口

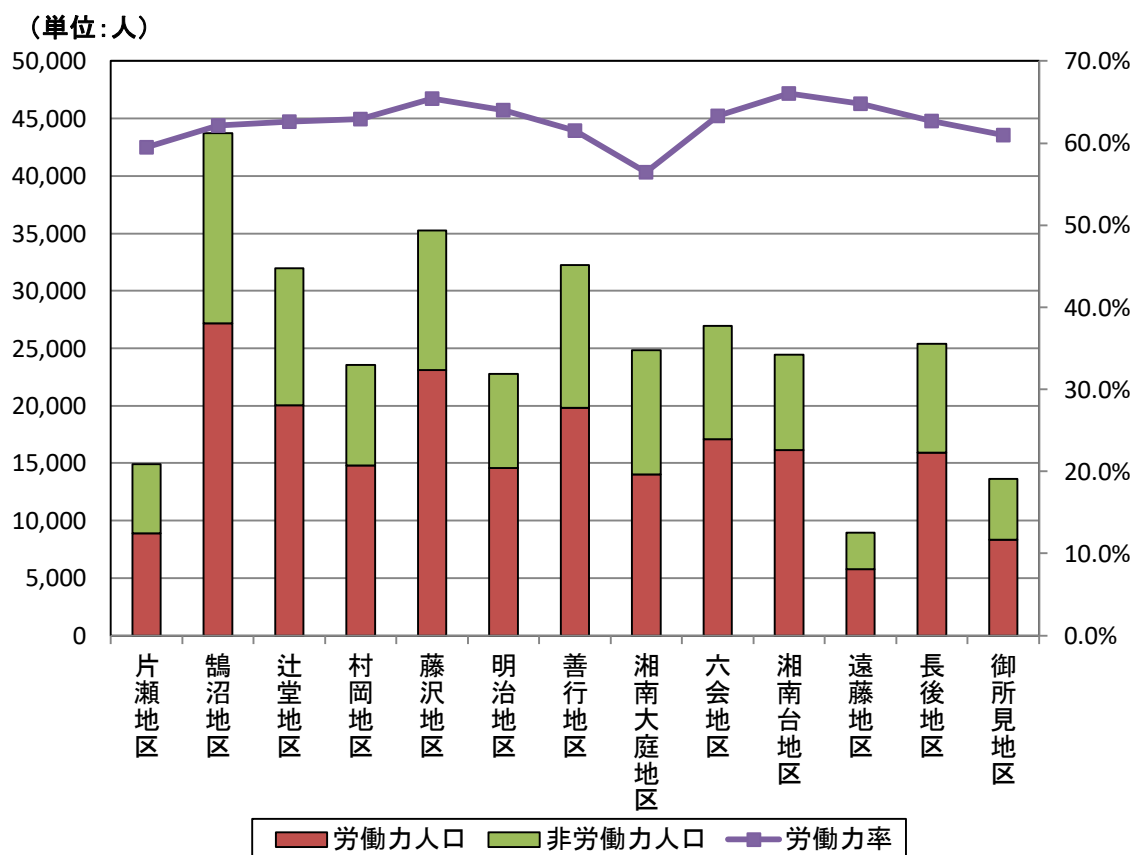


図39 13地区別産業3区分の構成比

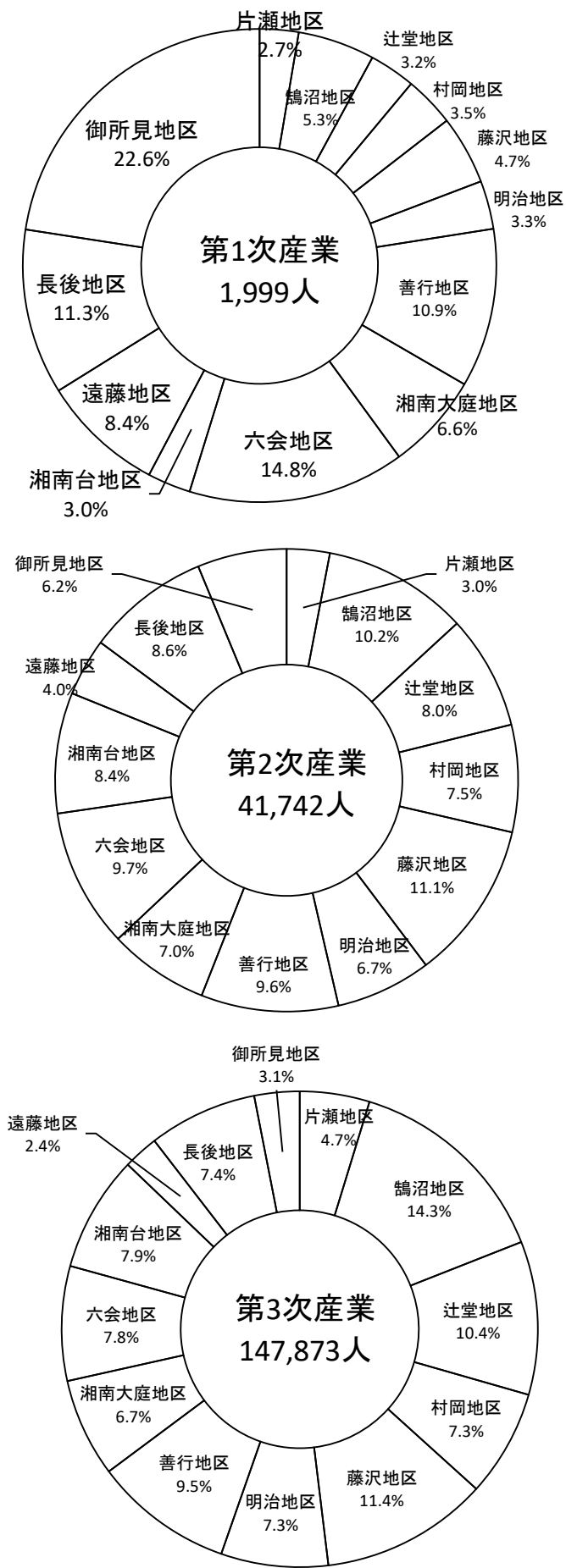


図40 13地区別職業大分類就業者の割合

